

令和3（2021）年度 事業方針及び計画における総括

*法人の目的、経営目標、事業所目標、支援及び指導における基本方針、重点目標までは共通項目となる。各部にて共通項目を抑えた上で、令和3年度の目標を立案し、具体的行動計画を作成し行ってきたことを総括する。

<参考資料>

1 法人の目的

- ・この社会福祉法人は（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるように創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるように支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

⇒課題；地域における社会福祉貢献等の活動を今後模索していく。

(1) 第二種社会福祉事業

- ・障害福祉サービス事業の経営
- ・障害児通所支援事業の経営

2 経営の原則等

- ・この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。
- ・この法人は、地域社会に貢献する取り組みとして、（地域の高齢者、子どもたち等々）を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

⇒（中間総括で示した内容をR4年度において継続して準備していく）

生活及びB型の仲間たちを小グループに分け、地域の独居老人又は高齢夫婦世帯においてのお手伝い（庭掃除等）を積極的に導入していく。

3 経営目標

- (1) 農林業を主軸とした労働の提供を行い、発達を先導する労働実践を行う。
- (2) 自立社会参加を目指して、豊かな心と社会性を育てる活動を行う。
- (3) 支援員及び指導員一人ひとりの専門性の向上を図る。
- (4) 地域住民に対して障害児者への理解を促進させるための啓発活動を行う。
- (5) 利用者一人ひとりのニーズを把握し、一人ひとりの将来を見据えた事業展開を行う。

⇒課題；地域における社会福祉貢献等の活動を追加していく。

4 事業所目標

- (1) 個々の実態に応じた支援及び指導を行い、個々の潜在的能力が十分発揮できるように取り組む。
- (2) 個別支援とグループ支援の連動性を高め、豊かな人間関係の構築を目指す。
- (3) 支援員及び指導員同士の共通理解を図り、利用者が主人公としての適切な事業所運営を行う。

*様々な諸会議や研修等、直接に仲間たちや子どもたちとかかわらないところでの支援及び指導

のあり方又は基本的な構え等が仲間たちや子どもたちを主人公として深めていくための目標、手立てにつながっていることをしっかりと認識できるようにする。(R3 後期修正)

5 指導及び支援における基本方針

- (1) 基本的な生活習慣の安定を図る取り組みを推進する。
- (2) 労働意欲を高める取り組みを推進する。
- (3) 創造的思考を高める取り組みを推進する。

6 重点目標

- (1) 実践を通して、法人の特徴（*スローガン；「ゆたかな地域コミュニティを創造しよう」）を創造し、その特徴を活かした支援及び指導体制（具体的指導方針は3つの柱）の確立を目指す。
- (2) 利用者、保護者、事業所、関係機関等々との連携を図り、一人ひとりの適切なニーズ把握を行う。
- (3) 共通理解された課題の獲得に向けたプロセスを実践し、科学的検証を試みる。
- (4) 地域との連携を推進する。
- (5) 安心、安全な事業所運営を目指す。

7 令和3（2021）年度目標

- (1) 支援スタイルの確立を目指す。（支援デザイン、個別支援計画、支援案等々の作成）
 - ・支援スタイルは生活介護、放課後等デイサービスにおいてはほぼ達成できてきた。今後修正を加えながら、さらに内容の質的向上を目指していく。
- (2) 内部研修及び外部研修の充実を図る。（発達を保障すべく理論学習の推進）
 - ・現在の研修方法を当面は維持していく。
- (3) 実践報告集（年度まとめ）を作成する。
 - ・まとめの会を実施する中で、年度まとめの検討をしていく。
- (4) 保護者との連携を進める。（サロン及びまとめの会等）
 - ・サロン活動の質的向上を目指していく。
- (5) 地域主催の行事等への参加及び事業所主催の行事への勧誘を図る。
 - ・コロナ感染状況を見ながら模索していく。
- (6) 防災計画の充実を図る。
 - ・現状の継続。
- (7) 第Ⅰ期10か年計画（H24～R4）の総仕上げを計画する。
 - ・生活介護定員増に伴う建屋建築を行なう。
 - ・生活介護定員増に伴う西館建築を計画通りに実施した。（定員は最終的に20名の増となる）
 - ・R4年度に第Ⅱ期10か年計画の内容を検討する。
- (8) 第Ⅱ期10か年計画における前期（R5～R9）の立案を行う。
 - ～社会福祉充実計画に沿った形で進める。

8 具体的行動計画案

- (1) 支援スタイルの確立を目指す。
 - ・生活介護及びデイについては、それぞれの特徴を明らかにしつつ、取り組みの変遷をまとめ上げる。
 - ・支援案等については各部各取り組みを進めるにあたって、必ず、1回は案を作成し、事後検討会を実施することとする。進めるにあたっては、支援案をケース会議にて確認し、実施後、同様にケース会議にて検証をすることとし、それら一連の諸記録をまとめておくこととする。なお、支援案に基づく実施を映像として記録し、その映像を事後分析する方法でも可能とする。

⇒未実施

(2) 内部研修及び外部研修の充実を図る。(発達を保障すべく理論学習の推進)

- ・各部より参加させ、指導員並びに支援員の資質向上のために職員としての基本的構えを学ぶ。(私たちが大切にしたい障害者支援のためのガイドライン) *繰り返し学ぶ。

⇒グループ研修の中止が多くなってしまった。(所長の事務作業多忙のため)

- ・実践研修の随時導入

⇒未実施

- ・外部研修として、サビ管研修(更新研修)、専門相談員初任者研修(更新研修)、強度行動障害基礎研修又は実践研修、虐待防止研修、県発達障害者センター主催の研修、人間発達研究所主催の研修、全障研主催の研修、きょうされん主催の研修、その他の研修へ積極的に参加していく。

⇒法定研修等必須研修はすべて実施。他の研修はコロナ感染状況によってズーム等で参加。

(3) 年度まとめを作成する。

⇒各部のまとめを実施

(4) 月1回のサロンの継続を図る。

⇒継続中

(5) 神戸地区町内会及び各種団体との連携を模索し、少しずつ、地域と連携した行事等を企画、活動を実現していく。

⇒コロナ感染状況を見ながら今後実施していく予定。

(6) 新たな場所における避難訓練に慣れつつ、地域と連携した防災活動を模索していく。

⇒コロナ感染状況を見ながら今後実施していく予定。

(7) 定員増に伴う建屋の建築を行なう。

⇒計画通りに実施

(8) GHの調査研究を進める。

⇒少しずつ情報を入手。

<生活介護>

R3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開所日	22	21	22	22	22	22	21	22	20	20	20	23	257	21.4
開所時間数	154	147	154	154	154	154	147	154	140	140	140	161	1799	149.9
区分3延べ利用者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
区分4延べ利用者数	66	62	64	43	41	42	41	43	40	38	38	46	564	47.0
区分5延べ利用者数	44	41	40	64	65	62	61	65	57	56	58	65	678	56.5
区分6延べ利用者数	147	132	148	148	146	142	145	140	130	137	134	147	1696	141.3
合計延べ利用者数	257	235	252	255	252	246	247	248	227	231	230	258	2938	244.8
受入可能延べ利用者数	275	262.5	275	275	275	275	275	262.5	257	250	250	287.5	3219.5	268.3
延べ利用時間数	1752	1623	1712	1737	1703	1436	1659	1681	1534	1559	1553	1754	19703	1641.9
平均利用時間数	6.82	6.86	6.79	6.81	6.76	6.75	6.72	6.74	6.74	6.75	6.74	6.74	81.22	6.8
利用人数に対する稼働率	97%	93%	95%	97%	95%	93%	98%	94%	95%	96%	96%	93%	1142%	95%
定員超過	117%	112%	115%	116%	115%	112%	118%	113%	114%	116%	115%	112%	1375%	115%
送迎往復数	406	372	396	405	396	382	381	391	364	358	356	405	4612	384.3
延べ往数	189	178	185	188	185	183	181	186	170	169	172	194	2180	181.7
延べ復数	217	194	211	217	211	199	200	205	194	189	184	211	2432	202.7

< 就労継続支援B型 >

R3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開所日	22	21	22	22	22	22	21	22	20	20	20	23	257	21.4
開所時間数	154	147	154	154	154	154	147	154	140	140	140	161	1799	149.9
延べ利用者数	99	101	105	103	99	103	112	115	111	111	115	129	1303	108.6
延べ利用時間数	691	707	735	721	691	863	783	798	769	772	805	900	9235	769.6
平均利用時間数	6.98	7	7	7	7	6.93	6.99	6.95	6.91	6.95	7	6.96	83.67	7.0
利用人数に対する稼働率	90%	96%	95%	94%	90%	95%	89%	87%	93%	93%	96%	93%	1111%	93%
定員超過	45%	48%	48%	47%	45%	57%	53%	52%	56%	56%	58%	56%	621%	52%
送迎往復数	153	160	166	162	158	156	138	141	139	140	147	163	1823	151.9
延べ往数	77	80	83	81	79	79	70	71	68	69	72	81	910	75.8
延べ復数	76	80	83	81	79	77	68	70	71	71	75	82	913	76.1

<放課後等デイサービス>

R3年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
開所日	26	25	26	26	26	26	25	26	24	23	24	27	304	25.33
平日	18	18	22	15	0	20	21	20	18	17	18	14	201	16.75
休日	8	7	4	11	26	6	4	6	6	6	6	13	103	8.58
登録者数	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	181	15.08
平日延べ利用者数	182	193	237	151	0	211	232	201	191	203	187	149	2137	178.08
休日延べ利用者数	106	73	39	111	279	51	38	58	59	48	64	133	1059	88.25
合計延べ利用者数	288	266	276	262	279	262	270	259	250	251	251	282	3196	266.33
受入可能延べ利用者数	325	312.5	325	337.5	325	325	312.5	325	300	287.5	300	337.5	3812.5	317.71
平均利用者数(一日)	11.08	10.64	10.62	10.08	10.73	10.08	10.8	9.96	10.42	10.91	10.46	10.44	126.22	10.52
定員超過(%)	110.8%	106.4%	106.2%	100.8%	107.3%	100.8%	108.0%	99.6%	104.2%	109.1%	104.6%	104.4%	1262.2%	105.2%
送迎往復数	328	336	385	294	158	349	356	326	302	304	276	256	3670	305.83
延べ往数	185	196	239	161	26	213	233	205	195	198	176	156	2183	181.92
延べ復数	143	140	146	133	132	136	123	121	107	103	100	100	1484	123.67

ごうでいんぐ岩世ヶ原 通所生活介護
令和3年度 活動報告（総括）

《基軸》

- ・ 基本的生活習慣の安定を図る取り組みを推進する。
- ・ 労働意欲を高めるより組を推進する。
- ・ 創造的思考を高める取り組みを推進する。

《重点目標》

- ・ 指導支援を通して法人の特徴を創造し、指導体制の確立を目指す。
- ・ 利用者、保護者、事業所などと連携を図りの確かなニーズを把握する。
- ・ 共通理解された課題を実践し科学的検証を試みる。
- ・ 地域連携
- ・ 安心、安全な運営を目指す。

上記を基本とし活動計画の実施内容。

1、グループ支援プログラムの充実

＜活動実績＞

活動を個別活動・基礎活動・労働活動・学習活動・その他の活動に分け、一週間にバランスよく配置した。

・ 労働（畑、洗車、環境ボランティア等）

畑) 季節に応じた畑作業の計画的な実施を行った。畑が近くなり作業日数も増え環境を整えることができた。また草取りの工程表を作成し、草取り・草運びを明確化し繰り返し行うことで、仲間達は草取り工程を身に着けスムーズに作業ができています。

・ 創造的活動（音楽療法、アート、季節の飾り等）

音楽療法) MT 指示で個別目標と手だてに沿って支援を行なった。MT のサインや言葉を仲間達は目を向け、内容を理解しようとする姿が見られる。楽器を鳴らし体を動かし音楽を楽しんでいる。

アート) 個室で行う・立って行うなど個々の様子を見ながら環境を変えた。仲間達は集中して活動に取り組んでいる。また他の仲間を真似て描く人もおり、描き方の幅も広がっている。

習字) 新しい活動プログラムとして習字を始めた。数回にわたり習字の時間をもうけ仲間達は手本を見ながら取り組んだ。新年は書初めを行ない、感謝祭に向けては大きな用紙にモップで作った筆を用い屋外で書くという体験もした。回数を重ね半紙に向かう表情はみな真剣で、心を落ち着けて取り組む様子が見られ習字の持つ力を感じた。

和紙作り) これまで工作のひとつとして行っていた和紙作りだが、今年度は新しいプログラムとして企画し、年間を通しての計画のもとに活動を行なった。基本の正方形は誕生会

のプレゼントに利用し、またごうでいんぐの行事においても式次第の用紙に採用して頂くなど利用の幅が広がった。また、形を変えてコースターも作った。感謝祭では手作りの雑巾と一緒に販売もした。仲間達は工程もよく理解し流れの良い作業が出来ている。

・お茶や生け花等和や自然を体験する活動

お茶) 4月末から5月にかけて新茶の摘み取り・揉み作業を行い手作りの新茶を楽しんだ。また夏には冷凍保存した茶葉をほうじ茶に加工し皆で味わい同じ茶葉でも違う味になることを体験した。また今年も3回ほど「お茶を楽しむ会」をカフェを利用して行い、茶会の雰囲気も楽しんだ。

生け花) 畑の一部を花壇として整備し、季節ごとの花をかなり賄えるようになってきた。仲間達は花の種まきや日々の水やり、種の収穫など生け花だけでなく育てる作業にも参加してくれた。生け花では五月の母の日に生け花をプレゼントし、保護者にも喜ばれた。秋は感謝祭の展示用としての生け花も行った。

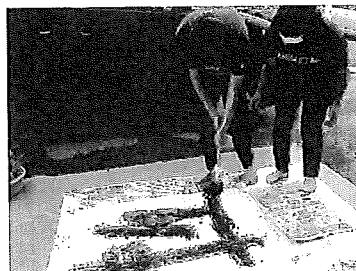
・感謝祭に向けた活動

個別活動の作品や工作の作品などを展示した。昨年度より展示スペースが広がり多くの作品が展示できた。中でも習字による作品は迫力があり目を引いた。仲間達の登所日であったため、ご家族を来客として迎え対応し、仲間達は物品の販売なども体験することができた。

・仲間の会は毎月行い、生活の上での決まり事などを話し合い、3か月に一度は評価会でお互いの頑張りを評価しあった。



畑作業



習字



生け花



茶もみ



お茶会



仲間の会・評価会

2、個別支援の確認(修正・追加・変更等)→個々の能力を伸ばす取り組み

- ・個別ノートの充実(単一でない個々に向けた取り組み)
- ・支援員間のコミュニケーションを密にする。(伝達ノート、ケース会議等の充実)
- ・保護者とのコミュニケーションの充実。(サロン、連絡帳、送迎時の情報交換等)

- ・個々の能力の確認。(常に柔軟に対応する)

<活動実績>

個別ノートの充実

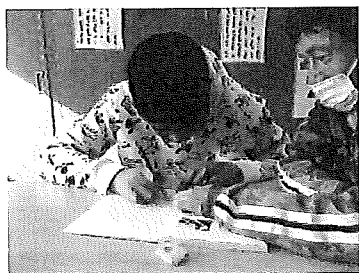
- ・毎週月曜日午前の個別活動を継続した。一週間の始まり、室内で落ち着いて行え活動が定着したことで仲間達は安定して過ごせている。振り返りノートには日記や字の練習をしたり、絵を描くことを課題として行っている仲間もおり、個々に合わせた取り組みとなっている。

個々の能力の確認

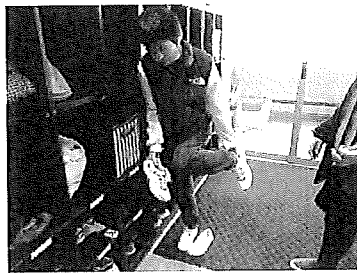
- ・ケース会議を有効に機能させ常に仲間個々の特性や取り組みについて話し合った。
- ・新しく加わった仲間もおり、5月に個別計画の見直し追加も行った。
- ・基本的な生活習慣においては手の出しすぎに注意し支援を行なった。手だての充実も図り、固定化せず見直しも柔軟に行った。

支援員間のコミュニケーションを密にする。

- ・職員の配置を6つのポジションに分けた支援を継続している。職員の入れ替わりはあったが常にコミュニケーションを取り、支援記録の記入、伝達ノートの活用、ケース会議での情報共有などの継続で支援に大きな影響はなく行えている。



振り返りノート



個別活動 靴履き



個別活動 工程学習



個別活動 習字



個別活動 刺繍



個別活動 ちぎり絵

3、地域との関わり

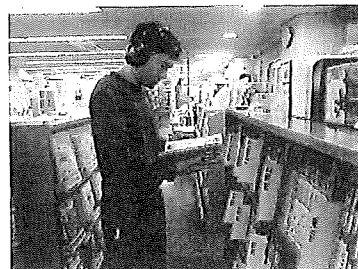
- ・環境ボランティア(地域のゴミ拾い)の継続
- ・公共機関の使用におけるマナー学習 (図書館の利用や買い物体験等)
- ・感謝祭のチラシ配りにおける地域の方とのコミュニケーション
- ・外活動の際の挨拶

<活動実績>

- ・環境ボランティアでは定期的に地域の環境美化活動を行った。散歩活動時も含め地域の方々への挨拶ができ、また地域の方々から声をかけて頂くことも増え、かなり認知はされてきたと感じる。また手袋の着用に加え火ばさみも使用するよう衛生面の強化をして行った。
- ・公共機関での通常のマナーに加え、コロナ禍における感染予防学習をした。仲間達はマスクを着けて外出が出来ている。感染者数の様子をみながら春と秋の遠足も行った。



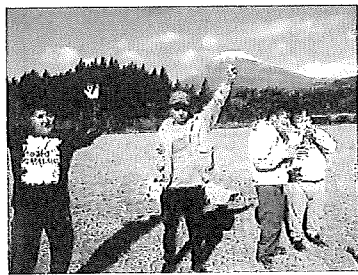
環境ボランティア



図書館



買い物



遠足



成果

新しい仲間を迎えたこの一年、コロナ禍での生活に仲間達はその状況をそれぞれ努力して受け入れてくれている。マスクの着用も始めの頃に比べると着けていられることが多くなった。新しい活動プログラムも増え、日々の活動も充実したものになった。仲間達も楽しんで参加してくれている。職員のコミュニケーションを密にし、共通の意識で支援に取り組むことができた。

課題





個々の力を引き出せる取り組みと支援を心がける。

西館が出来、次年度には新しい仲間5人も増え、また環境が変わる。仲間達の心の安定を一番に考え支援を行っていく。日課・活動プログラムの組み立てなど再検討が必要となる。

活動拠点が広がることに伴い、これまで以上に職員のコミュニケーションは重要となる。

一年を振り返り

新型コロナの感染者数は増加・減少を繰り返し、今だ収束は見通せない状況が続いている。感染対策に伴った活動の制限もあるが仲間達なりに理解し受け入れてくれている。職員集団としてのまとめ、また一人一人の努力もありこのような状況下でも比較的安定した生活が送れていると思う。次年度にはさらに新しい仲間も増える。仲間達の生活が楽しく充実したものになるよう職員一同努力していきたい。

所長	サビ管	事務長	報告者
			

ごうでいんぐ岩世ヶ原就労継続支援 B 型 令和 3 年度運営方針

【目標】

1. 仲間一人一人が安定した基本的な生活習慣を築くことができ、自分の生活を少しずつ管理できるようにする。
2. グループ作業により仲間一人一人が「できること」「得意なこと」を見つける。

【年度計画】

- 4 月：①1 日の生活の工程が仲間自身で取り組める支援方法を探る。
 ②仲間それぞれにおける基本的な生活習慣において「壁」となることをあらためて確認する。
 ③グループ作業において仲間が「できること」「得意なこと」を探る。
- 6 月：①時間を意識した生活が送れるような支援方法を探る。(年間継続)
 ②仲間が共同して「できる作業」を探る。
- 7 月～ 前期まとめ
- 10 月：前期の計画課題を継続していく。
 作業において「できること」「得意なこと」を一定時間取り組みができる方法を探る。
 (後期継続)
- 1 月～ 年度まとめ

【行事等】

外部関係事業所見学研修を実施できる状況となった場合計画を行う。

ごうでいんぐ岩世ヶ原就労継続支援 B 型 年度総括

【目標における成果】

1. について

①「基本的生活習慣の安定を図る取り組み」において朝の準備における時間の短縮を目的とされた仲間も具体的「手立て」でタイマーを取り入れたことで、徐々に決められた時間内で行えるようになった。

⇒9時15分朝礼開始を目標とし、残り時間のタイマーをかけることにより時間の短縮を行えるようにした。

②今年度新しく入ってきた仲間により、他の仲間の良い影響を受け着替えを行えるようになった。⇒女性の仲間が増えたことにより、真似をしてより多くの作業を行えるようになった、(カフェの接客、洗濯物)

③朝礼や終礼を行う仲間も、一緒に生活している仲間を観察し進行することもできるようになった。⇒全員が立って揃わないと、仲間同士で声を掛け合うようになった。

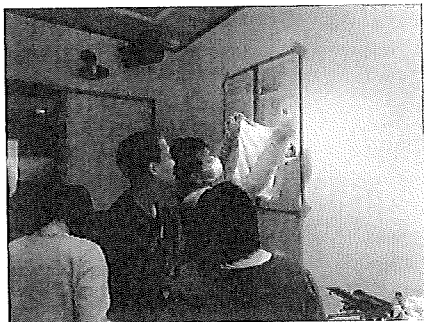
④支援員が近くに寄ることを拒んでいたが、拒むことがなくなり、基本的生活習慣においてできることが増えてきた。(歯磨き、服の交換、発語等)
⇒自分からの発語、歯磨き、作業等積極的に行動に移せるようになった。

⑤体力づくりの時間において、体を動かす機会が増えた。
⇒ラジオ体操の頑張り表を作ることにより、全員が参加する姿勢をもてた。



2. について

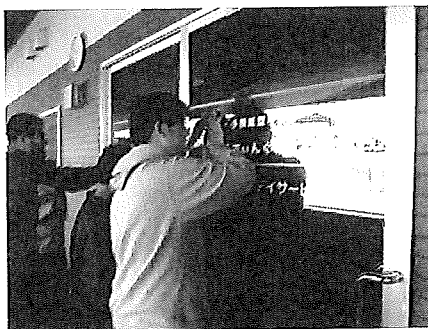
- ①グループ作業を行い作業内容が分けられることで、作業を拒否することが少なくなってきた。⇒多くの作業に挑戦することができた。



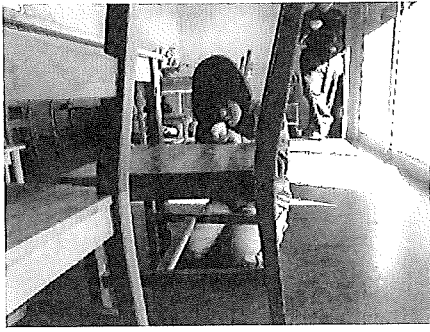
- ②外作業において草取り作業等タイマーを使うことで、時間内出来るようになった。⇒数を数えることによって持続性をもてるようになった。



- ③委託作業でガラス拭きや床拭きにおいて、大きく腕を動かし拭けることができるようになってきた。⇒下の方までかがんで拭けるようになってきた。



- ④カフェ掃除においてテーブルや椅子、スリッパ拭きなど細かな作業を集中して行うことができています。⇒指示がなくても自分から行動する機会が増えてきた。



⑤箒や草取り鎌を使って掃き掃除、草取り作業を行うことができる仲間も出てきた。⇒
荷物をどかして隅の掃き掃除も行えた。



【課題】

- ①自分自身の思いがうまく伝える方法がわからず、通常生活では問題行動ととられてしまうことがある。(例：お茶をこぼす、他者の頭を叩く、周囲のものを蹴る等)
- ②自分の荷物の整頓がうまくできず、持ち物が決められた場所に入れられない。
- ③通常の生活や作業において必要な場面でも、一か所に留まることがなかなかできない。
- ④自分の持ち物と他の仲間の持ち物を区別することができない。他人の荷物に触ってしまう。お世話をしてしまう。
- ⑤皆と同じ時間に行動できずに、他者を待たせてしまう。
- ⑥椅子に静かに座って待つことができない。

【行事等】

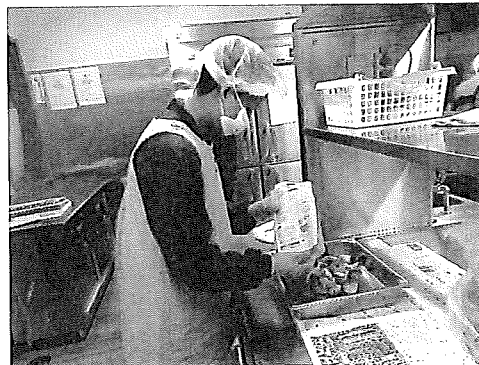
新型コロナウイルスにおける緊急事態宣言等発令の為実施できていない。

【まとめ】

前期に続いて基本的な生活習慣については、2年目ということもあり徐々にスムーズな動きができるようになってきている。しかし皆と同じ時間に行動できない、わざと違う行動をする等、全体での行動に支障がでることがあった。また、自分の気持ちの表す方法がわからないことから、周囲から問題行動ととられる行為が日常生活において多くの場面で表れている。今後の大切な支援課題と思われる。

作業活動については、グループ作業を取り入れることで「やれること」がそれぞれの仲間が増えつつある。カフェグループでは、今までマスクや着替えができなかった仲間が他の仲間の影響を受け着替えるようになった。接客を恥ずかしがってできなかった仲間が他の仲間の影響を受けできるようになったなど、お互いが刺激しあうことができるようになったことが増えつつあった。また、消極的でなかなか行動に移せなかった仲間が、一番に積極的に行動するなどの姿勢も見られた。

来年度も、体力づくりの時間や文化的・創造的活動の時間なども通して、仲間一人一人の健康や体力向上につながるような活動も今後積極的に取り入れていけるよう活動プログラムの展開を考えていく。



ごうでいんぐ岩世ヶ原 放課後等デイサービス
令和3年度 年度報告（総括）

《基軸》

- ・ 基本的な生活習慣の安定を図る取り組みを推進する。
- ・ 労働意欲を高める取り組みを推進する。
- ・ 創造的思考を高める取り組みを推進する。

《重点目標》 前年度継続

- ・ 支援指導を通して法人の特徴を創造し、指導体制の確立を目指す。
- ・ 利用者、保護者、事業所などと連携を図り適切なニーズを把握する。
- ・ 地域連携
- ・ 安心、安全な運営を目指す。

《年度報告》

1. グループ支援プログラムの充実

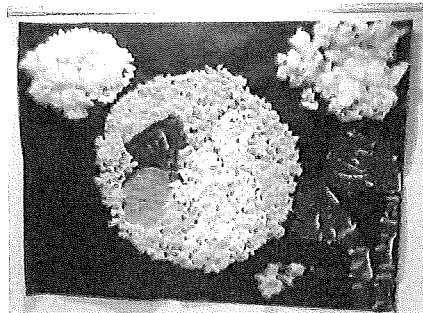
- ・ 壁画作成、立体作品の作成（利用者主体）

◎毎月テーマを決めて季節に合わせた作品作りができた。

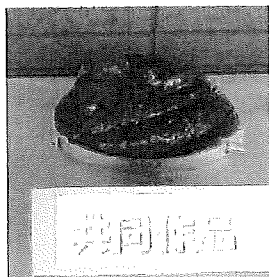
4月の壁画



お月見の壁画



お正月の壁画



畑で取れた、じゃがいもとキュウリを
紙粘土を使い、みんなで作りました。

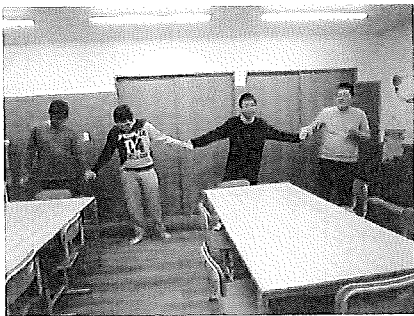


・ 夏休みに絵具で造形遊びをしました。

・創造的活動（音楽、劇、歌、等）



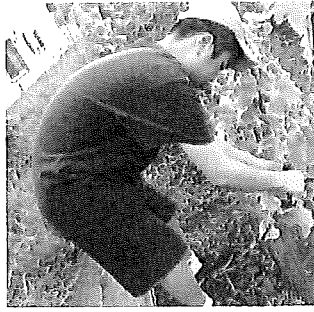
◎工作ブームは今も継続されている。作ったものを遊びに使えるようにと、工夫する力もついてきて、みんなで楽しく遊んでいる



◎みんな、ダンスが大好きで、行事へ向けた練習や、1日利用時の活動に楽しく踊っている。

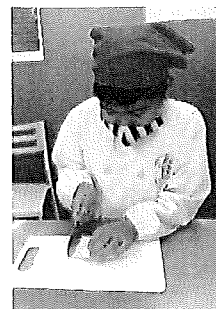
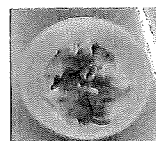
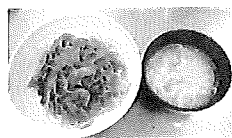
・畑作業

◎今年もじゃがいもやキュウリ、ピーマン、さつまいも等たくさんの野菜を植えて、収穫をしました。



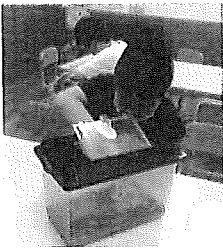
・調理実習

◎今年も、1日利用日を活用して、たくさんの料理や、おやつを作りました。みんな、それぞれ料理の腕が上達しています。



・夏の昆虫観察

◎今年も、カブトムシの飼育観察をみんなでがんばりました。



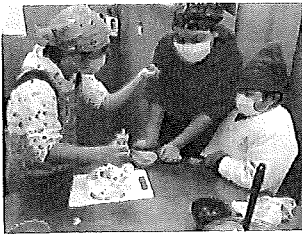
・みんな、カブトムシの記録をつけています。

・イベントに向けた活動（子供の日、感謝祭、ハロウィン、クリスマス会、誕生日会など各種イベント）

◎誕生日会、感謝祭、クリスマス会等のたくさんのイベントを楽しみました。

・クリスマス会の様子です。

ケーキを作り、サンタさんに来てもらい、みんなでダンスをたのしみました。

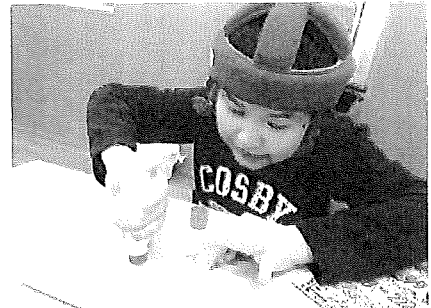
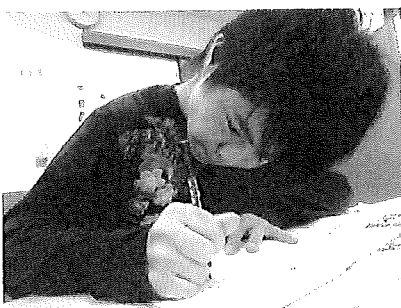


2. 個別支援の修正、追加、変更の確認を充実（個の能力を伸ばす取り組み）

・個別ノートの見直し。充実を図る。

◎個計に基づいた個別学習の内容を、毎月児発管が確認することで保護者からのニーズを吸い上げ、支援計画の変更と修正を含めながらレベルアップに繋げることができた。

個々の能力については「できない」と決めつけず指導員が寄り添いながら挑戦し、レベルが高すぎれば変更を行った。



・指導員同士のコミュニケーション作りを図る。

◎ケース会議を通して、事業に必要な取り組みが共有できるように話し合いを行うことができた。

◎チェック表を活用して、記入ミスや、タイムカードの打刻ミス、戸締り等のミスを改善することができた。

・指導員と保護者のコミュニケーション作りを図る。

◎中学部 3 年 T さんのことば遣いに対して、保護者から相談を受け、事業所での支援や T さんに対する思いを伝え、共有することができた。

3. 外部地域住民との関わり

・公共機関や外部イベントを計画したいが、コロナ禍において制限されることが多いため、地域周辺の環境ボランティアなどを継続する。

◎近くの緑地公園に散歩に行きながら、ゴミ拾いや、草取りをがんばることができた。






4. 成果と課題

・今年度も、新型コロナウイルスの影響で公共機関や施設利用の制限が続いた。利用者やその家族にも陽性者が出て、事業所を 2 週間休んだ。他の利用者もコロナの関係で、休みの希望が出た為、代替的支援も行った。

このような状況中、利用者達も今の状況を受け入れて、それぞれの課題に取り組んだり、縮小されたイベントを楽しむことが出来た。

指導員も、この状況の中、利用者としっかりと向き合い、お互いのレベルアップに向けて取り組んできた。

・今後は、少しマンネリ化してきた取り組みを見直しながら、利用者一人、一人に合った支援を模索して取り組んでいきたい。

所 長	事務長	報告者
		

令和3年度 研修委員会年度まとめ

今年度委員会での活動

① 調べた記事をホワイトボードに掲示する。 掲示資料ファイル回覧

・みんなのねがい 2020.12

子育ては誰もが“若葉マーク” 暴力・暴言が増える 思春期 自分のことを知る権利

・みんなのねがい 2020.12 この子と歩む 気づき・学び・実践・運動…あきらめない!!

・みんなのねがい 2017.08 楽しいを授業のねらいに!

・みんなのねがい 2021.01 特集みんなの一年目 学びの原点と出会いに支えられて

・みんなのねがい 2021.01 先輩からあなたへ 子どもを“真ん中”にして語り合う

～授業研サークルで「気づき」「発見」「納得」

・みんなのねがい 2021.01 わたしの教材、教具 「ただしこと」より「たのしいこと」から パート2

・みんなのねがい 2021.03 「想定外」を想定できる世の中に

・金澤翔子の世界

・福祉で「儲けてはいけない」？ 知的障害の「可能性」をビジネスに昇華させる双子経営者

・知ろう!学ぼう!障害のこと 「自閉スペクトラム症のある友だち」 監修 笹田哲氏

・みんなのねがい 2021.06 またあした 「あそびの授業」

・「自閉症の僕が跳びはねる理由」 東田直樹氏

・goo ニュース 4歳の娘 つらい闘病で「大丈夫」という言葉が大嫌いに

・みんなのねがい 2021.04 この子と歩む 息子の成長にちょっぴり心が熱くなる

・発達障害の子どもが伸びるほめ方、しかり方、言葉かけ 監修 塩川宏郷氏

・静岡新聞 2021.09.05 コロナ禍 障害者に打撃

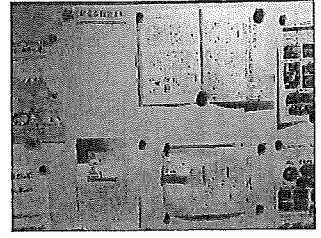
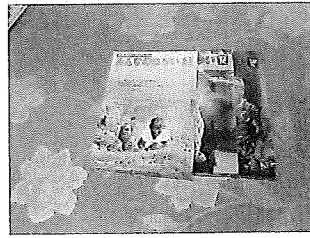
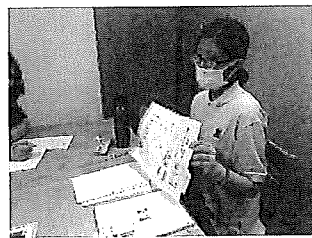
・みんなのねがい 2021.12 この子と歩む 「優華とともに学び成長する旅」

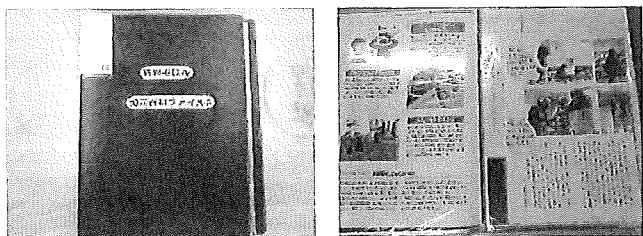
・障害者週間とは

・静岡新聞 2021.11.28 気が抜けない在宅介護 体調変化見逃せば命取り

・みんなのねがい 2021.09 人が好きになれる場所に

・知ろう!学ぼう!障害のこと 「ダウン症のある友だち」 監修 笹田哲氏 など



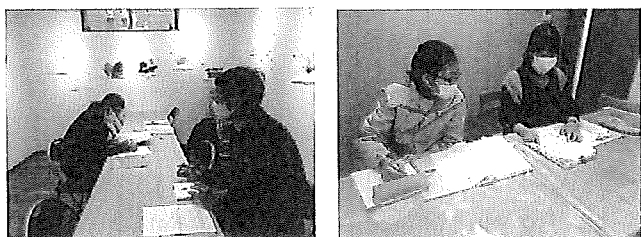


②研修に参加した職員より報告会

研修発表①「強度行動障害と医療的支援講習」 報告者:大川支援員

研修発表②「トウレット症候群の理解と支援」 報告者:放デイ職員

研修発表③「静岡県障害者虐待防止、権利擁護研修」 報告者:初又支援員






反省 課題等:

- ・委員会メンバーだけでなく、他の職員もぜひ資料集めなどに関わってもらえると望ましい。
- ・ごうでいんぐ内でも学べることはたくさんある。外部研修を少しずつ再開してきているようですので、参加してみるのも良い。
- ・掲示板(ホワイトボード)を通して、職員に周知出来た。

次年度に向けて

引き続き「みんなのねがい」を活用、資料集めをしていく。

掲示板や研修を通じて、各職員の支援の質をあげていきたい。

所長	事務長	報告者
		

令和3年度労働創造委員会年度総括

・テーマ

今年度テーマ「あわせてひとつ」

・活動目的

3事業所がそれぞれ別々の活動を展開しているが、それぞれが協力して一つの「目標」を完成させる
 <仮説：3事業所が共通の課題に対し共同して、表現を通し一体化していくことができるか？>

・活動内容

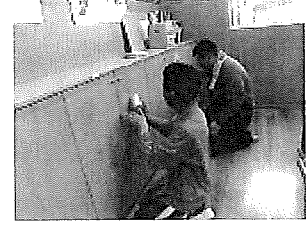
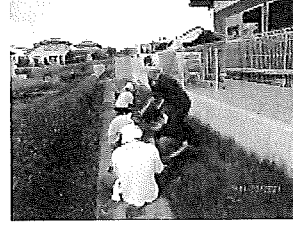
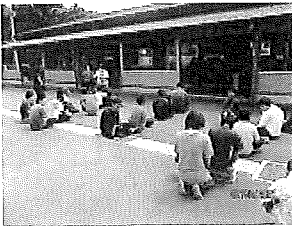
労働：夏の共同草取り作業

創造：感謝祭に向けた共同作品作り

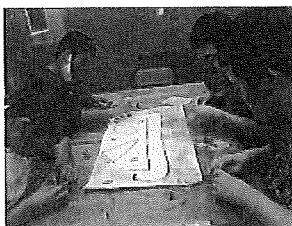
部門毎の継続作業：デイ 帰りの掃除／生活 環境ボランティア／B型 環境ボランティア・ポスティング)

・成果

労働：草取りが全体でできなくて残念だったが、生活とデイは草取りを行った。それでも3部門全体が一堂に集まり開始式ができたことは良かった。また、部屋からの移動や活動においてスムーズで混乱や事故がなく良かった。普段なかなかできない部分がきれいにできて良かった。



創造：3部門それぞれのアイデアがありながらも、青を基調とすることを共通としたことで一体感をより感じられた。作品作りに仲間達が楽しんで参加できていた。制作スケジュールにも無理がなかった。



継続作業：デイ 継続して行ったことで「僕がここをやる！」等仲間達に責任感や意欲を感じられた。
 生活 地域をきれいにしながら近隣の方と挨拶をしたり、地域の方との交流につながった。
 B型 様々なことを体験しながら、地域の方との直接の出会いがあり、地域との繋がりが持てた。



・課題

労働：雨上がりだったことで、一部の部門では部屋掃除となり、完全な合同作業にはならなかった。

創造：作品は良かったが「翔」の文字の意味や目的、テーマについての説明が十分でなかった。

継続作業：デイ 掃除機を乱暴に扱うことがあった（仲間の気が向かなかったときに行った）。

生活 コロナ禍なのでゴミの取り扱いやソーシャルディスタンスに注意が必要。

B型 コロナ禍、外に出る機会も限られていたこと及び、外出時の安全確保に注意が必要。

・次年度に向けて

労働：合同作業を夏と冬に行いたい。同時作業ではなく、目標を決めて一定期間（例：障害者週間等）の間に行なう方法についても検討してみる。

創造：今年度作成した「翔」の文字に一文字プラスし、組み合わせた言葉で表現を行なう。

継続作業：デイ 帰りの掃除の継続

生活 環境ボランティアの継続

B型 今後の事業運営に合わせ考えていく

令和4年度労働創造委員会の活動について

来年度の活動としてフェーディングを意識した工程の分析・分解を労働創造委員会として行うのはどうか？

各工程で支援員の介入度を減らしてフェードアウトしていく（例：手添え→ジェスチャー→声掛け等）ために利用者に当てはめてどこに問題があるのか分析を行うために活用できるようにしたい。

→ どの部門でも活用できるように3部門共通する工程、課題内容について、工程の分析・分解を行ない今後の支援の現場で役立てることを目的として進めていく。

どこまで細かくしていくか？

部門毎でさらなる枝分かれが必要な項目もあるかも知れない。

工程を分析していく課題内容を「何」にするか各部でも話し合っ、次回の委員会でまとめ、話し合う。

生活保健委員会令和3年度活動報告書

テーマ：健康で楽しく楽しく過ごそう

活動日時：5月11日、6月8日、7月13日、9月21日、10月26日
11月30日、2月8日、2月22日

年間活動内容案

- ・お便り「えみ〜る」冬号の発行（12月）
- ・コロナ、ノロなど感染症の注意喚起に関するリーフレット配布
- ・AED講習
- ・緊急時対応訓練（ノロウイルス二次感染予防のための嘔吐処置方法の訓練）

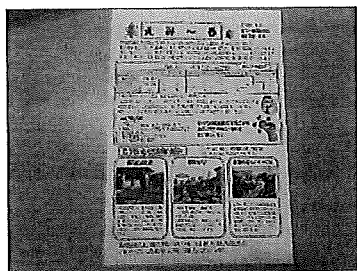
活動内容

1. コロナ禍での生活における基本的な生活様式のリーフレット配布
コロナ対策について改めて注意喚起をおこなった。（8月配布）



2. えみ〜る冬号発行（12月初旬配布）

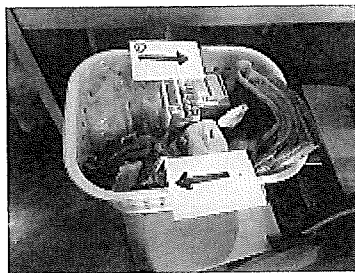
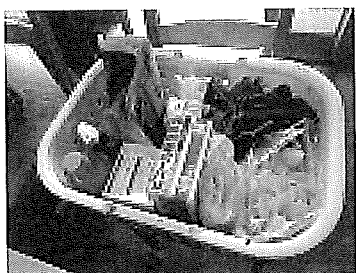
風邪・インフルエンザ・感染症など流行する冬、健康に暮らすことに焦点を当てた記事として「バランスのとれた食事」について取り上げた。また、ごうでいんぐの取り組みとして「身体を動かす適度な運動」を取り上げた。



3. 緊急時対応訓練「ノロウイルス二次感染予防のための嘔吐処置訓練」の実施に向けて様々な取り組みを行なった。

- ・各部署及び車両内の処理グッズの点検と補充
- ・委員会内で処置対応の訓練
- ・訓練を基に新しいマニュアルの作成
- ・11月の緊急時対応訓練に向けて各部署での学習の呼びかけ。
- ・緊急時対応訓練

(1) グッズの点検と補充を行なった。



各部署：取り出しやすい流れをつけ収納した

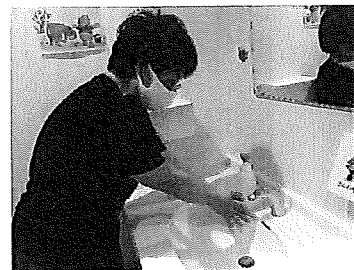
車内のグッズ

	ハイエース 8668	ハイエース 1959	ノア	v o x y	パッツ
ティッシュ	○	○	○	○	○
シューズカバー	×	○	○	×	—
ゴミ袋	○	○	○	○	○
新聞紙	×	○	○	○	○
マスク	○	○	○	×	×
手袋	○	○	○	○	○
アルコール	○	○	○	○	○

各車両のグッズの過不足を表で明確にし、統一した装備につなげた。

(表は点検時点)

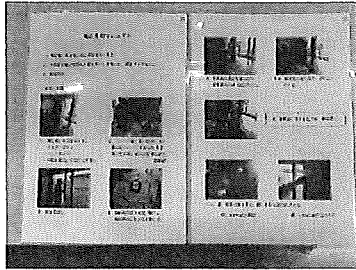
(2) 委員会内での処置訓練



装具の装着から処理～手洗いまでを細かくチェックし、順を追って行った。

(3) マニュアルの作成

委員会内での処理訓練の写真を利用して一連の流れが視覚でわかるようなマニュアルを作成した。



4. 今年度も AED 講習は新型コロナウイルス感染拡大の為中止した。

5. 成果

- ・感染予防の嘔吐処理に関する様々な取り組みを通して、委員会委員の嘔吐処理に対する意識が高まった。
- ・嘔吐処理マニュアルが解りやすくまとまった。
- ・「えみ〜る」やリーフレットによって健康管理の情報が提供できた。

6. 課題

嘔吐処理について

- ・実際に起きた嘔吐の処理から、車内での対応・必要な備品・処理の難しさなど新たな課題が見つかった。この経験から車両の処理グッズを見直し定期的な練習の実施や職員への知識の普及の必要性を感じる。

まとめ・・・一年の活動を通して・・・

今年度は特に嘔吐処理に関する活動に重点を置いて委員会を行った。点検・訓練・マニュアル作成を行い、活動を通して委員の嘔吐処理に関する意識はかなり高まったと感じている。また委員全員で意見を出し合い活動することができた。この活動は今後も継続して行い全職員が同じ対応ができるよう普及活動にも繋げていきたい。

新型コロナ感染症はウィルス変化を繰り返し対応が難しくなっている。委員会として出来ることは感染しにくい環境づくりの情報提供と考える。基本に立ち返って皆が普通に出来ることを繰り返し伝えていくことを役割として続けていきたい。

次年度も健康な生活を送るための様々活動に取り組み生活保健委員会としての役割を果たしていきたい。

令和 4 年 2 月 14 日

所長	事務長	報告者
		

議案者 海老澤 亜衣

令和3年度 広報委員会事業内容

今年度は主にB型のカフェの販促物や外部用のPR動画の作成を行った。これまでのように生活介護のアートや音楽療法の動画をアップすることはできなかったが、ホームページのアクセス数は前年度と同じように推移した。

今年度の広報委員会の役割

1. ごうでいんぐ岩世ヶ原の事業内容の周知
2. B型の商品イメージ定着や販促物の制作

R3年度 事業成果

1. ホームページ、FB更新（お知らせ）
2. B型 昨年度1月よりスタートしたB型パン作りのPR（動画・画像作成、シール、チラシ作成、カフェ内販促物）
3. R3 7.30～ 育成会事業所説明会上映用パワーポイント、動画作成
4. R3 11.3 ミニ感謝祭での看板・ポップなどの作成
5. R4 1.21公開 福祉まつり、動画・パネル製作（生活・B型）
6. R4 1.10 大人の祝いの会 撮影・記念品作成

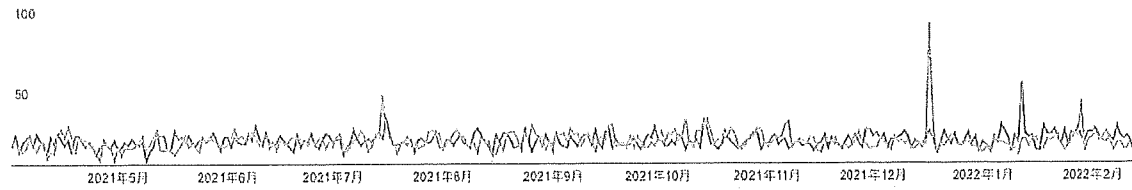
R4年度 事業予定

1. 新パンフレットの作成（生活増員・B型事業内容修正）
2. HP修正（生活増員・B型事業内容修正）
3. 西館PR（FB、HP更新）
4. カフェを一般向けに開店できるような準備（のれん、のぼり旗、シヨップカードなど）、PR（FB、HP更新）

Google アナリティクス報告 (R3 4.1~R4 2.13 と前年の比較)

2021/04/01 - 2022/02/13: ● ユーザー

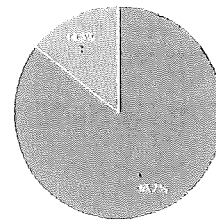
2020/04/01 - 2021/02/13: ○ ユーザー



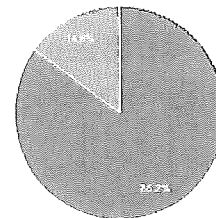
ユーザー	新規ユーザー	セッション
-6.69%	-5.90%	-0.37%
2,121 と 2,273	2,090 と 2,221	6,395 と 6,409
ユーザーあたりのセッション数	ページビュー数	ページ/セッション
6.77%	27.10%	27.58%
3.01 と 2.82	47,978 と 37,749	7.51 と 5.89
平均セッション時間	復帰率	
3.31%	-89.56%	
00:04:24 と 00:04:15	1.35% と 12.90%	

■ New Visitor ■ Returning Visitor

2021/04/01 - 2022/02/13



2020/04/01 - 2021/02/13



▲新規ユーザー獲得数はやや減少したが一人当たりの閲覧ページ数や閲覧時間は上がった。保護者がホームページの更新を楽しみにしてくれているとのお声を頂いている結果が現れたと思う。

<input type="checkbox"/>	1. /	📄 10,289 (21.45%)	👤 3,951 (23.55%)	00:00:14	3,853 (60.34%)	1.79%	11.86%
<input type="checkbox"/>	2. /g_day/	📄 6,219 (12.96%)	👤 2,247 (11.33%)	00:00:53	685 (10.73%)	0.00%	21.80%
<input type="checkbox"/>	3. /g_sei_works/	📄 4,898 (10.21%)	👤 2,145 (12.24%)	00:00:26	96 (1.53%)	2.08%	24.07%
<input type="checkbox"/>	4. /g_b_works/	📄 2,947 (6.14%)	👤 1,193 (6.81%)	00:00:30	52 (0.81%)	0.00%	12.62%
<input type="checkbox"/>	5. /gdc-info/	📄 1,708 (3.56%)	👤 567 (3.34%)	00:00:30	134 (2.10%)	1.49%	19.79%
<input type="checkbox"/>	6. /report/	📄 1,400 (2.92%)	👤 421 (2.47%)	00:00:16	43 (0.67%)	0.00%	7.93%

▲トップページ、放デイ、生活、B型、事業所案内・沿革、お知らせといった順にアクセスが多かった。B型はパンの商品ページなどあったら良いと思った。

研修 実施状況

	日時	内容	備考
1	4月21日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領 ・職員行動指針 ・障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き P7迄 	第2G(5名)
2	5月12日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領 ・職員行動指針 ・障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き P7迄 	第3G(5名)
3	5月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領 ・職員行動指針 ・障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き P7迄 	第1G(2名)
4	6月9日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者虐待防止法の概要 ・障害者福祉施設等の虐待防止と対応 	第3G(5名)
5	6月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・倫理綱領 ・職員行動指針 ・障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き P12迄 	第4G(3名)
6	6月16日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者虐待防止法の概要 	第1G(3名)
7	7月7日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者虐待防止法の概要 	第2G(4名)
8	7月14日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・人権意識、知識や技術向上のための研修 ・虐待を防止するための取り組みについて 	第3G(5名)
9	8月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・初任研 ～倫理綱領、職員行動指針 	初任者
10	9月8日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉施設等の虐待防止と対応 ・虐待が疑われる事案があった場合の対応 ・身体拘束の廃止と支援の質の向上に向けて 	第2G(5名)
11	9月15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者福祉施設等の虐待防止と対応 ・虐待が疑われる事案があった場合の対応 ・身体拘束の廃止と支援の質の向上に向けて 	第3G(5名)